

平成27年7月3日

白楊ヶ丘同窓会札幌支部

〒060-0061

札幌市中央区南1条西11丁目

TS札幌ビル

公認会計士・税理士 酒井純事務所内

# 白楊ヶ丘札幌

## 総会にむけて

札幌支部 支部長

黒田 信彦

(第七三期・昭和四十六年卒)



白楊ヶ丘同窓会札幌支部の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃から同窓会の活動に対しましては、一方ならぬご支援を賜り感謝申し上げます。本年度も皆様方のお陰で総会・懇親会を開催できる運びになりましたことに対して厚くお礼申し上げます。

今年は第六九期の皆様が多番幹事となり、講演会や懇親会の内容をお考えいただき、参加された多くの方が満足され、絆を深められるよう企画・運営していただきました。

さて、同窓会を発展させながら末永く継続するには、同窓会員一人一人の意識の持ち方をはじめ、同期の中での繋がりや職場の中での声かけなどが考えられますが、どれも

会員数を増やすための決定的な要因にはなりません。どこかの同窓会も会員数や総会への参加人数が減少していると聞いており、それに伴い運営するために必要な年会費も減少しています。私の場合もそうでしたが、若い頃は仕事にも家庭にも忙しく同窓会にまで気が回らず、足を運ばなかったのが現実でした。そして参加してみても、共通の話題に乏しかったり大先輩ばかりが多かったりと、毎年参加してみようという気持ちにまでなれませんでした。それが退職が近づいたり職場の中に同窓会がいて仲良くなったといううちに行ってみようかという人が多くなるのではないのでしょうか。やはりきっかけが大事であり、若い方に参加する

きっかけを提供するのは先輩方の大事な役目だと思っております。

以前は、同窓会が活発だった時期もありましたが、最近では一人で生活し個人の時間を大切にする傾向が強まっており、大勢が集まって郷愁を分かち合うことが難しい時代になっていきます。しかし、世の中は人と人の繋がりで営まれていく集団社会であり、コミュニケーションなしでは社会は成り立ちません。私たちは様々な場所に出て多くの人と交わり、話をしていく中から人生観を考えたり、人との接し方を学んだりしていくものだと思います。そして、豊かな人間力を持ち備えた人がやがて社会のリーダーになったり、社会に貢献する人材になっていきます。

このような人間力を養う最大の機関は学校です。昨年十二月に中教審から答申が出され、高校教育・大学教育・大学入試の一体的改革が打ち

出され、現在の中学一年生が大学を受験する五年後の二〇二〇年から実施されることになりました。これまでの大学入試はセンター試験と各大学が実施する個別試験の点数の合計だけで合格者を決めていましたが、特定の分野に卓越した力を持つている生徒や身近な課題に真剣に向き合い行動する生徒などは評価の対象外であり、AO入試や推薦入試の多くは単なる学生数確保の手段に過ぎませんでした。その結果、高校段階の力が身に付いておらず、大学では多様な学生が切磋琢磨する環境にないため、主体性を磨くこともないまま目標もなく社会に出て、その結果仕事に就いても簡単に離職するという負のスパイラル構造になっています。このような原因は、グローバル化やイノベーションを担う大卒人材が求められているにもかかわらず、大学は依然として学問を教えるのが基本で

あり、社会から期待されている人材を育てていないという批判が高まっています。大学教育を変えるには学生を送り出す側の高校教育も変えなければなりません。高校教育は大学入試に大きく左右されているのが現状です。ならば、大学入試も大幅に変えてしまおうというのがそもそもの発想であり今回の答申が意図するところでは、これからの大学入試は単なる知識だけを詰め込んだだけでは役に立たず、基礎的な知識・技能を活用できる課題解決型に転換し、思考力・判断力・表現力などの能力や主体的に取り組む態度が試され、多様な人々と協働して学ぶ学習が重視されます。

た選抜こそが「公平」であるという、従来型の「公平性」の脱却ができなかったところに原因がありました。一点以下の僅かな点数で合否が決まるのが日本の入試だということに何の疑問も抱かなかったところに思考停止状態があったのかも知れません。しかし、一点というのは出題のヤマやケアレスミス、当日の体調、受験地までの交通や天候によって大きく変わるものであり、そのような一発勝負の偶然に左右される公平さより、受験生をじっくり判定して合格者を決める方が遙かに公正であるという考え方を基本とした選抜になります。そのため、多様な方法で評価し選抜することになり、「人が人を選ぶ」という個別選抜が重視され、大学の入り口段階で求められる力を多面的・総合的に評価する入試に変わることが決まりました。具

体的には、センター試験は廃止され、高校在学中に「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」を複数回受験し、その持ち点に加え各大学では、小論文、面接、集団討論、プレゼンテーション、活動報告書、調査書、大学入学志望理由書や四年間の学修計画書、資格・検定試験の成績、受験者の努力を証明する資料などを組み合わせた選抜になります。従って、中学校教育や高校教育はこれまで以上に大切になり、知識は当然必要だが、知識だけでは役に立たず、課題解決能力や主体性が一層重視され人間力を高める教育が求められてきます。

人は皆、自分とは違う環境で仕事や生活をしている方や年代の違う方との交流を深めることで幅広い力に身に付き、潜在している能力を引き出すことになり、そういう観点からも同窓会

の果たす役割は大きいものがあるのではないのでしょうか。そして、こういうことを伝えていくことが先輩方の役目であり、しいては同窓会の活性化に繋がっているかと思っております。本年度も会員の皆様方のご理解・ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

## 創立百二十周年にあたって



白楊ヶ丘同窓会会長

石井直樹

(第六三期・昭和三十六年卒)

白楊ヶ丘同窓会札幌支部  
定期総会・懇親会のご盛会をお喜び申し上げます。この二、三年の異常気象には大変驚いており、昨年九月に札幌へ行きましたが、大雨と雷により、夜中に携帯の異常を知らせる非常警報音が十回以上鳴り響き、寝

不足気味になったことを思い出します。また、今春の桜の開花の早さにもびっくりです。例年でしたらゴールデンウィーク前後に、その美しさを楽しんでおりましたが、今年は四月下旬に桜前線があつという間に通り過



# 東京支部だより



白楊ヶ丘同窓会東京支部長  
安田 康次  
(第六七期・昭和四十年卒)

白楊ヶ丘同窓会札幌支部

の皆様方におかれましては、お変わりなくお過ごし

のこととお慶び申し上げます。昨年

も第三十五回定期総会・懇親会にご招待いただき有難

うございます。早いもので

今回の出席が八度目となります

ますが、年ごとに盛会にな

っていくように感じられます。これ

も幹事期の皆様の努力が実を結んで

いる結果ではないかと思っております。

十月十七日(土)には本校創立百二十周年の式典が行われ

親会が行われない様です

が、同窓会全体で盛り上げていきたいと思

います。今年是全国的に桜の開花が早く

、札幌では一週間から十日早いと報道で聞き

ましたが、花見の設定も苦労されたのでは

ありませんか。また、五月中に台風が

七号まで発生し、箱根では火山活動が活

発になるなど、何となく異常気象を連

想させ、四季がはっきりしない気候にな

って来ています。様なきがしてしかたが

ありません。さて、東京支部の活動状況

大会は、十一月に前年と同じ「グランド

アーク半蔵門」で第八四期(昭和

五十七年卒)が幹事期となり、「函館つ

ながり」をテーマに函館で活躍する第

八四期の(株)まちづくり五稜郭代表・

青田基氏とやはり第八四期の湯の川女

性クリニック院長・小葉松洋子氏の

講演が始まり、参加者はご来賓を含

め百八十名の方々にご出席いただき

、盛会の内に終わることが出来ました。

今年も十一月十四日(土)に昨年と

同じ場所、第八五期が「函中・函館の

今」、「映像」をテーマに映像の上

映、関係者によるトーク等の企画を

検討中です。ご都合がございましたら

ご参加いただければ幸いです。

「東京白楊だより」第三十七号も

多くの方々の寄稿をいただき、さら

にページ数も増やして発行することが

出来ました。会報は同窓生を結ぶ大

変重要なファクターと考え、第三

十八号も充実した内容にしていきたい

と頑張っております。また、ポプラ

会ゴルフコンペは、七月は十名、

十二月は十二名と残念ながら少数

での開催となりました。昨年

も三校(東高、西高、中部)の対抗

戦函館巴会ゴルフコンペが開かれ

ましたが、函中は最下位となつて

しまいました。今年度からは三校に

加え、五校でのゴルフコンペを企

画しております。今年度は函中が

幹事校となりますので、是非成功

させたいと思います。

東京支部ホームページは少しづつ

ではありますが、活用しやすくな

るために若い方が頑張っています

ので、アクセスしてください。涉

外活動も積極的に行っております

が、母校卒業式に出席し、私が

在籍した当時と比較し、一学年

の生徒数の少なさ(二百三十名

前後)に改めて少子化の問題が如

実に迫っていることを実感させ

られました。大きな課題の一つ

である年会費納入者の減少傾向

は昨年も歯止めがきかず、悩ん

でいます。これからも増々少子化

が進むことが止められないと思

われる中、一人でも多くの方に

同窓会の魅力をわかつてもら

えるような会にしたいと思つて

おります。

東京支部では各種連絡、お問

い合わせ先としてメールアドレス

を開設しておりますので、ご利

用下さい。

白楊ヶ丘同窓会東京支部

©kancyujp@yahoo.co.jp

最後に、白楊ヶ丘同窓会

札幌支部の益々の発展と黒

田支部長はじめ、札幌支部

の皆様のご健勝を祈念申し

上げ、近況報告とさせていただきます。

# 伝統受け継ぐ白楊魂 未来へそして世界へ



北海道函館中部高等学校長  
千原 治

白楊ヶ丘同窓会札幌支部

の皆様には日頃より本校の振興と教育活動へのご支援を賜り、心より御礼申し上げます。また、黒田信彦支部長におかれましては、函館中部高校の先輩校長でもいらつしやいますので、一層のご指導を賜りたいと存じます。

今年には本校創立百二十周年の年であり、十月の記念式典を始めとした記念事業を前にして、緊張の念を禁じえません。同窓会の皆様のお力添えをいただき、実りある記念事業にしたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

## 一 創立百二十周年

本校創立百二十周年に当たって、記念事業協賛会は石井直樹会長のリーダーシップの下、たくさんの課題を解決しつつ順調に推移しております。表題の「伝統受け継ぐ白楊魂 未来へそして世界へ」は、協賛会の話し合いの中から生まれたキャッチコピーです。総務委員会において、学校の封筒等に百二十周年のロゴを印刷し、校門前に看板を設置して創立百二十周年を大いにPRしようということになり、本校教員が考え抜いた末に生まれたのがこのコピーです。昨年の雪が

降る前に看板が出来上がり、登下校の生徒も、地域住民も、本校を訪れる方々も、通りすがりの人も、誰もがこの看板を目にしていると思うと楽しくなつてきます。生徒もこのコピーがお気に入りです。生徒会及び白楊祭実行委員会は、第六十六回白楊祭のテーマを「伝統受け継ぐ白楊魂、未来へそして世界へ」創立百二十周年」としました。今年の学校祭は百二十周年を全面に出しての取り組みとなるものと期待しております。

学校が周年事業を行うことの意味は沢山あります。それらの中で、私が最も重視したいのが「在校生が自分の学校の歴史を考え、自分たちの高校生活を改めて見つめる」ということだと思っております。その意味で、生徒が節目の年に現役の函中生としてめぐり合わせたことを喜びとし、自分

たちの作り上げる白楊祭のメインテーマに創立百二十周年を掲げたことをとても嬉しく思いました。

## 二 本校の状況

伝統を受け継ぎ未来や世界へ羽ばたくためには、現状をしっかりと見つめる必要があります。そこで、現在の本校の様子について、いくつかの観点から報告いたします。

### (一) 高校入試状況

昨春、私はこの函館の高校入試の恐ろしさを身に沁みて味わいました。本校に着任する前から、「函館の公立高校の入試では受験や入学を辞退する生徒が非常に多い」ということは耳にしており、覚悟はしていませんが、実際に体験した衝撃は強烈なものでした。つまり、二次募集しても定員に満たないまま新年

度をスタートせざるをえなかったのです。同じことを繰り返してはならないと思ひ、中学校訪問を行うなど思いつくことを実行しました。それが功を奏したのか、或いは他の要因があったのか、詳しくは分析していませんが、今春は二次募集や定員割れという事態は避けることはできました。

とはいえ、相変わらず辞退者がたくさん出ており、本質的なところは変わっていません。油断をしてはならないということですが、それに、なすべきことやなさねばならないことはまだまだあります。辞退者を減らすためには、本校の魅力を高め、それを発信し、中学生やその保護者の心に届けることに尽きます。来年に向けて、戦略性をもって取り組みたいと思っております。

### (二) 進路状況

今春の大学入試等の結果



函館中部高等学校

を数字でお知らせします。国公立大学合格者は現役百十二名・過年度三十八名・計百五十名、私立大学合格者は現役百八十五名・過年度七十名・計二百五十五名、高等看護学校を含む専門学校合格者は現役二十四名、公務員等就職者は五名でした。主な大学は、北大十九名、北海道教育大十六名、弘前大二十二名、東北大七名、九州大一名等でした。これらの数字をどう評価す

るかについては、人によって様々だと思いますが、私は大健闘であると思う評価します。国公立大学の現役合格者は最近二十年間では一番良い数字でした。生徒の頑張りや、教員の指導を褒めたいと思います。しかし、これで良いとは思っていません、まだまだ伸ばすことができると思っています。私の目標は、国公立大学現役百二十名、その中で所謂難関大学現役三十

名(東大・京大に複数合格を含む)です。大学入試に関して言うならば、例えば、函館市内の他の高校の結果が良くなったら、本校の実績が下がる訳ではありません。ということ、市内の高校が互いに切磋

琢磨し、情報や指導法などについて連携協力することにより、「函館全体がレベルアップすることが望ましい」のです。現在の函館地区の状況は、旭川地区や帯広地区に比べて明らかに劣っています。これらの地区を目標にがんばっていくことが大切であると思っています。そのためには、いろいろなレベルでの交流が必要です。私は、今年の校長協会道南支部での支部長の方針として「道南の高校生のさまざまな力の向上のキーワードは切磋琢磨・連携協力です」と述べました。この後、校長会として議論をすることを呼びかけ、具体的な話し合いを進めていく所存です。

### (三) 部活動状況

本校の部活動の活躍は特筆すべきものがあります。全国大会での入賞は、放送局・将棋部・書道部でした。

特に、将棋部の女子団体は全国高総文祭で二年連続準優勝という快挙を果たしました。その他、全道大会で入賞して全国大会に出場したのは、陸上部・水泳部・囲碁部・パソコン部です。全国には進めなかったものの、全道大会で入賞した部は、女子バスケットボール部(全道三位)、E S S部です。

この原稿を書いている今、まさに高体連支部大会が行われています。今年も多くの方が支部大会を勝ち抜いて全道大会に駒を進めてくれるものと期待しています。

### 三 未来へそして世界へ

昨年度、本校は文部科学省のSGH(スーパードグローバル・ハイスクール)アソシエイト校の指定を受け、グローバルリーダーの育成をめざした教育活動の

研究開発を行いました。今年はその指定は得ていませんが、引き続き行っていく所存です。函館は古くから港町として栄え、海外との交流が盛んな土地柄です。まさに、グローバル社会としての素地ができておりますので、それらを活用したグローバル人材の育成をめざしております。

文部科学省は、「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革」に本格的に乗り出しています。これは、若者の多様な夢や目標を支えるための未来志向の改革です。私達は現場の教員として、このような大きな動向を踏まえ、キーワードである「アクティブラーニング」を推進し、本校生徒の豊かな未来のために一層の努力をしていく所存です。

# 回想

## 函館中学校の思い出

富田 迪夫

(第四三期・昭和十六年卒)

北海道庁立函館中学校および函館中部高校が、日本の中等教育に一役を果たすようになってから早くも百二十年を経過し、多数の誠実にして良識ある卒業生を出し、我が国の文化向上に少なからぬ貢献をしたことは衆知のことであり感無量のものであります。私が母校に在学の頃は北海道庁立函館中学校であり、私は昭和十六年三月に卒業した。その後、昭和三十四年から四十四年に至る十年間、中部高校に教員として奉職したので、いよいよ縁の深い学校であります。在学中、校長先生は、千葉精

一、渡部善次、水上正広先生と相次ぎ、私にとって特に印象が深くお世話になった先生は、宮崎宗孝先生、浜岡栄一先生、山口英二先生です。人生の愛憎がやや分かりかけ、堅い蕾がほころび出した頃の毎日を思い出すのであります。新学期のインクの香りの高い教科書を開く時のわくわくした思いや学年の進むにつれて古文の美しさを感じ、一方においては理数科の中での物理に興味を持ったことなどが後に教師への道に進むきっかけでもありました。白楊にかこまれた函中の校舎は、全体に黒光りがし、

四十年の伝統を、ずっしりと感じさせました。特に掃除や行儀が厳しいということもなく、のんびりと自由でした。流石に道内で札幌第一中学（現在の札幌南高校）と並んで伝統ある学校と言われただけに、人生の味をにじませた先生方や後年北大やその他で学殖を伸ばされた方々も少なくなかったです。こうした先生から、改まって人生や読書の指導はありませんでした。淡々とした授業の中で風格を偲ばせる方言が私の中に何時までも生き続けているようで本当に幸せでした。

函中は創立以来、一貫して「文武両道」を柱に自由な校風によって知徳体のバランスのとれた進取の気概をもった人材を育成すべく教育活動を展開してきました。それが「白楊魂」として生き続けています。現在は、函館をはじめとして札幌、東京、大阪、仙台など

同窓会支部が存在し、多くの同窓生が時空を越え、一つの建学の精神で結びついていいることを考えると、これこそ伝統校である所以なのかと感心させられます。前述の三人の校長先生は、今思い出しても皆、素晴らしき人格者であり、さすが函中の校長先生であると心から感謝申し上げる次第です。千葉精一校長先生は、元



千代台電停



函館山からの夜景

次に渡部善次校長先生は、三十四歳で旭川中学校長を拜命、そして四十歳そこそこ函中の校長として着任されました。その透徹せる頭脳と進歩的、積極的な性格は、情熱にあふれ、その学校経営は、まことに鮮やかであったといわれています。校長の率先垂範の気概は、よく諸先生をリードし着々と校風の振興に寄与していました。

設定、生徒自治会を作ったり、全校マラソン実施、校内研究授業など、函中発展につくされました。水上正広校長先生は、小樽中学から着任されました。豪快にして男性的、骨太で政治性の豊かな人物であった佐上一長官が道教育行政の一環として本道文教の刷新を図った際、新進気鋭の教師を本州に求めて迎えられた十数名の中の一

人であったといわれているのが水上先生であり、前述の渡部先生でした。水上校長は、英語の牧野徹夫先生（後の札幌南高校校長）や、生物の山口英二先生（後の函館大学教授・理学博士）などの俊秀を函館中に集め学習指導に特段の配慮をされたのです。函館中学と現・函館中部高校が創立百二十周年を迎えることになったと知り、

この学校を育ててくれた函館の街並みが、私の目の前に浮かびます。

懐かしい函館を振り返ってみよう、函館山の桜の結びは遅かったけれど、この春にさきがけて街は北洋への出航で活気を呈し、夏の

港まつりが近づくと、古い開港場の歴史が多くの市民に蘇るのか、山の手の人々も、下町の商家の人々も、また郊外に拡がるサラリーマンも、一つになって街は大いに賑わったのです。やがてキリスト教会の鐘が、ひととき響く頃、津軽海峡の夜を漁火が彩るのです。

キーと共に新しい年がやってきたのでした。こうして平和な年月を迎えたのだが、満州事変から日支事変に変遷し世の中が暗い厳しい時代になってしまったのです。

年月のもたらす忘却は、すべてを美しくするかも知れませんが、私にとって「太いマドロスパイプをくゆらす船乗り手」という表現がピタリする体臭もったあの函館の街を、その中で私たちが共に過ごされた先生方が誇らかに、私の子供達や孫に語っています。函

中卒業以来六十四年も経過し、私も超高齢の九十三歳を迎えようとしているのであります。函中での同期の方々は年々少なくなっています。私も健康に留意しつつ、同窓会には参加して、教師時代に共に歌った函館中部の校歌や同窓会歌を声高らかに歌いたいと思っています。いる次第です。

この学校を育ててくれた函館の街並みが、私の目の前に浮かびます。

# 回想

## わが青春の一コマ

釣 晴彦

(第七三期・昭和四十六年卒)

私は一九六八年四月（一九七一年三月の三年間（同窓会では第七三期）、函館で下宿生活をしての高校生活でした。支部長に同期の黒田信彦君が選出されたこともあり、事務局から原稿の依頼で、四十五年も経ったか細い記憶を辿りながら、また友人に電話して当時のことを聴きながら書きました。昔の写真はあまりありません。カメラは高価なものでした。でも今は便利な時代になりました。写真も簡単に撮れ、スマホありインターネットで何でも調べることが簡単に出来ます。当時の生活、文化、

芸術などを調べて見たら、過ごした時代を検証出来る様々なことを再発見しました。父は、中学校教員で、私は中学校二年生で江差町字田沢にある日明小・中学校へ転校しました。同級生に飯田富洋君がおり、二人で卒業後は、函館中部高校へ行こうと決めて進学しました。函館中部高校は地元では名門校と云われており、田舎から見れば憧れの高校でした。帽子は白線があり、旧制中学校の雰囲気がありました。下宿の家主さんは、函館ドックに勤務しており、柏木郵便局の前の大き

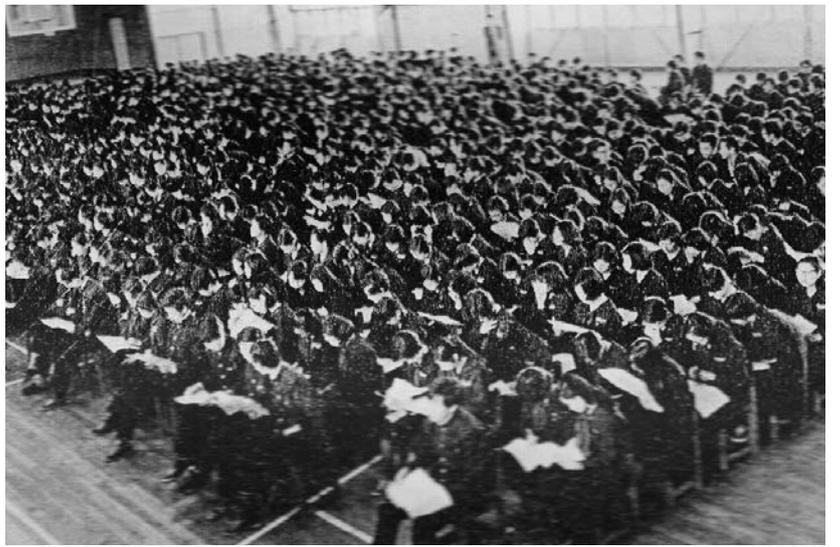
な屋敷でした。家主さんも亡くなり、建物は取り壊され今は個人病院になっています。当時の下宿は、弁当まで作ってくれました。定時制があったため高校には食堂があり、昼間は全日制の食堂として使われていました。弁当を食べてもお腹が空く時は、うどんかそばを食べていました。同期の上山恭男君も同じ下宿でした。柏木の電停から歩いて、夏の期間は三年間下駄をはいて学校まで通学していました。一年担任は科学の押金秀之先生で、二年生の担任は、社会科の三沢誠一郎先生でした。柔道部の顧問です。私は当時実家が奥尻になり、冬に帰省した時、冬の嵐で欠航が続き一週間ぐらい授業を欠席しました。三沢先生が電話で「ゆっくりしていいれ」と語っていたことは今でも覚えています。三年生は英語科の浄土英二先生で

した。当時  
は三年生で  
九クラスあり、文系と理系に区別  
されていました  
した。実力  
試験の時は、廊下に  
名前と点数  
が成績順に  
発表していた時代でも  
あります。  
遠足は  
春、秋と一年間に二回実施してました。学校祭は今でも覚えています。ファイアーストームが作られてフォークダンスがありました。それは八月だと思えます。お盆が過ぎて何となく物侘しい感じがする時期でもありました。現在は北海道の高校の学校祭はほとんど七月上旬から中旬に実施されています。五稜郭はまだ丸井

今井デパートが進出する前で、むしろ十字街が賑やかでした。娯楽というと、ボーリングが全盛時代でありました。ビリヤードも五稜郭にあったので、三年生の時は気晴らしに時々行っていたような気がします。  
進学する時は、ほとんど担任には相談しませんでした。勝手に自分で願書を取り寄せて志望校を



新函館北斗駅



生徒集会の様子

絞って担任に報告だけしました。その当時は、私の知る限り本州を希望する生徒が多かったです。私も迷わず本州の大学を選んでいました。試験の都合で卒業式には出席していません。函館を出てから、今まで函館に住んだこともありませんが、出張で行く時は、時々同窓生の中沢雅夫・綾

は「共通一次」「センター試験」と戦後三度にわたり、大学入試制度が変化してきました。五年後に再び、大きく姿を変えようとしています。昨年十二月、中央教育審議会（中教審）は、「知識偏重」から、「知識の活用」をみる大学入試への改革案を文部科学大臣に答申しました。今後どんな形態

子（旧姓蒔苗）夫妻に会うくらいです。彼らは同級生同士の結婚です。第七三期の同窓会は、毎年函館で会合を開いています。当時は、国公立は一期校・二期校の時代です。その後

になつていくのでしょうか。二年生の時、東大紛争があり、東大受験が中止になりました。亡くなった地理の我妻貞寿先生が生徒会に代々木系が乗り込んでくるかと心配していたそうです。が、事実の真偽の程はわかりません。高校野球では選外優良校に選ばれていました。同期の大久保投手の活躍もあり、全道大会（たぶん秋期）の準決勝で惜しくも敗退だったことが、この成績により選ばれたようです。

札幌南高校が先導的な行動を執っていました。三年生の時、中部高校は、生徒会が制服の自由化で全校生徒集会を二、三回開催し、制帽の自由化を勝ち取り、制服の自由化は卒業後になりました。職員会議ではどんな話し合いがされていたのでしょうか。また、私の下宿には、二年生の春頃、警察がきて下宿生の事情聴取がありました。それは、例の永山則夫連続射殺事件の犯人捜しです。北海道出身であり年齢は同じくらいだったことと、当時は連絡船に乗ることがあり、函館駅から棧橋に通じていて、人の見送りや出向かいに出かけていたことがあったからです。十一月には三島由紀夫が、市ヶ谷の自衛隊東部方面総監部にて割腹自決をした事件があり、日曜日には、よくデモ行進を見かけることが多く、学生運動も別の様態に変貌していく兆しがありました。

景を思い浮かべます。中部高校では四十代から五十代の先生が多く、英語の上野茂樹先生とか樋口隆士先生は三十代前半で若手の先生でした。先生方の家で浄土先生も加わり、英語のスピーチの練習をしていたそうです。今はグローバル化と叫ばれ、中部高校は北海道の先進校として英語教育の重点教育を実施しています。まさに先人の先生達の想いが継がれて今にあるのかも知れません。三年年の時は大阪で日本万国博が開催され、翌年は田中角栄の「日本列島改造論」が出て、経済状況は勢いがあり、沖縄は一九七二年五月十五日に日本へ復帰します。そんな激動の時代の中で高校生活を送っていたわけです。中部高校は今年で百二十周年を迎えるそうです。今後とも中心校として飛躍していくことを願っています。

札幌南高校が先導的な行動を執っていました。三年生の時、中部高校は、生徒会が制服の自由化で全校生徒集会を二、三回開催し、制帽の自由化を勝ち取り、制服の自由化は卒業後になりました。職員会議ではどんな話し合いがされていたのでしょうか。また、私の下宿には、二年生の春頃、警察がきて下宿生の事情聴取がありました。それは、例の永山則夫連続射殺事件の犯人捜しです。北海道出身であり年齢は同じくらいだったことと、当時は連絡船に乗ることがあり、函館駅から棧橋に通じていて、人の見送りや出向かいに出かけていたことがあったからです。十一月には三島由紀夫が、市ヶ谷の自衛隊東部方面総監部にて割腹自決をした事件があり、日曜日には、よくデモ行進を見かけることが多く、学生運動も別の様態に変貌していく兆しがありました。

卒業アルバムを開くと卒業生総数は四百十一名であります。入学の時ももう少しいたような気がします。が、定かではありません。当時の先生方のイメージは、特に理数系で名物教師と呼ばれた先生が多かったです。時には批判をして教室や廊下で激論を交わっていた風景を思い浮かべます。中部高校では四十代から五十代の先生が多く、英語の上野茂樹先生とか樋口隆士先生は三十代前半で若手の先生でした。先生方の家で浄土先生も加わり、英語のスピーチの練習をしていたそうです。今はグローバル化と叫ばれ、中部高校は北海道の先進校として英語教育の重点教育を実施しています。まさに先人の先生達の想いが継がれて今にあるのかも知れません。三年年の時は大阪で日本万国博が開催され、翌年は田中角栄の「日本列島改造論」が出て、経済状況は勢いがあり、沖縄は一九七二年五月十五日に日本へ復帰します。そんな激動の時代の中で高校生活を送っていたわけです。中部高校は今年で百二十周年を迎えるそうです。今後とも中心校として飛躍していくことを願っています。

# 回想

## 函館中部高校の 思い出

三上直子

(第一〇二期・平成十二年卒)

私が函館中部高校を卒業してから、十年以上の月日が流れました。

現在、私は札幌市内で弁護士として働いており、日常生活の中で高校時代のことを思い出すという機会もなかなかありませんが、今回改めて振り返ってみると、なんて自由気ままな毎日を感じていたのであるかと感慨にふけると同時に、もっと有意義に過ごせたのではないかと若干の後悔も覚えているところです。

私は、部活動をしない、いわゆる「帰宅部」でしたので、毎日、授業が終わる

とバスに乗ってまっすぐ家に帰り、寄り道といえは五稜郭にあった「大文堂」という書店で参考書や小説を見てまわるくらいでした。

家に帰ると、まず当時飼っていた愛犬と遊び、少し休憩してから散歩に連れて行きます。愛犬の散歩を終えると、習っていたピアノの練習を一時間くらいし、夕食の後は、テレビや読書、寝る前に少しだけ勉強というのが私の日常で、そこには「青春」を感じさせるような華やかなエピソードはあまりなく、我ながら極めて地味な生活だったと思います。しかし、ピアノや読

書にあれば時間を費やすことができたのは、あの頃くらいでしたし、私自身はそんな毎日にとっても満足していました。

そんなマイペースな性格でしたので、中部高校の自由な校風は小中学生の頃からの憧れで、高校受験の際には中部高校以外の高校は受けませんでしたし、実際に入学して以降も、ここが自分の選んだ高校だという

思いは変わりませんでした。制服もなく、校則もなく、髪を染めるのも自由(たまに緑色の髪の子もいました)、それぞれが思い思いのおしゃれや日々の過ごし方を選択し、それが許されるというのは、とても居心地のよい場所だったのです。

このように書いてしまうと、学校生活自体の思い出がないように思われてしま

うかもしれませんが、もちろんそんなことはありません。

白楊祭の創作ダンスや、修学旅行、耐久レースなど、友人やクラスメイトとの楽しかった思い出も数多くあります。

その中で、白楊祭よりも印象に残っているのは、高校二年生のときに「市民オペラ」に出演したことでしょうか。

今でもあるのかもしれませんが、当時、函館市では一年に一回、市民会館で歌の好きな市民らがオペラを披露するという催しがあり、そこには中部高校の日本史のK先生が毎年出演していました。

私も一年生までは観る側だったのですが、二年生の時は、「アイダ」が演目となり、奴隸や兵隊役のエキストラがたくさん必要だということ、中部高校の学生に声がかかったのです。



八幡坂

私は演劇部に友人がいたということもあり、好奇心から奴隷役で参加をしました。が、「エチオピア人の奴隷」という設定ですから、身体を茶色に塗って、クレオパトラ風のメイクをし、ぼろ布を巻いて服にし、舞台上で命乞いをするという経験はとても面白いものでした。また、舞台を裏方から見られるというのも貴重な機会となりました、出演者の一人に中学時代の音楽の先生がいたり、二日間と、二日間の公演やその前のリハーサルの期間も含めて、高校時代一番の思い出と言っても過言ではありません。



はこだて明治館

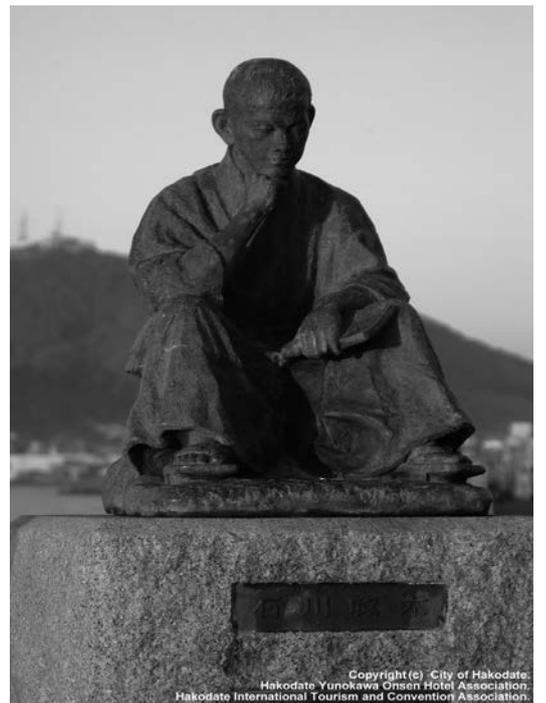
冒頭でも述べたように、現在私は弁護士をしています。が、中部高校入学時点の将来の目標も弁護士でした。幼い頃から国語や社会などの文系の科目が得意でしたし、中学生時代に読んだジョン・グリシャムの小説の影響から、それほど深く考えることもなく、弁護士になりたいと考えていたのです。しかし、そのときから一貫して弁護士を目指していたのかというとそうでもなく、高校一年生の秋ごろ、私は、クラスメイトから借りた「動物のお医者さん」という漫画がきっかけで、百八十度方向転換し、希望する進路を獣医に変更しました。

この「動物のお医者さん」という漫画は、北海道大学獣医学部が舞台となっており、その人気から同学部の倍率がはねあがり、当時もかなりの難関となっていました。

普段は漫画を読まない私は、クラスメイトから借りるまでその存在を知りませんでした。が、もともと動物好きであり、愛犬家でもありましたので、読んでみると一気にのめりこんでしまったのです。

勢いそのままに高校三年生のコース選択では迷わず理系を選んだものの、難関の獣医学部に入るほど必死に勉強をしたかというところでもなく、数学や生物はなんとかついていけたものの、化学、とりわけ有機無機という分野に絶望し、高校三年生の秋にはやはり文系に進路を変えることにしました。小説やテレビの影響を受けやすい私は、当時はまっていた海外ドラマで、女性弁護士がスターバックスのコーヒーを片手に颯爽と法廷に向う姿に憧れ、「やっぱり弁護士になるう！」と思ってしまうたのです。

そうして進路でふらふらとしていた結果、現役では大学に合格できず、浪人した末に何とか北大の法学部に入学することができました。



啄木小公園

中部高校は生徒の自主性を大事にしていましたから、先生方も私の選択をその都度尊重してくれてはいました。が、内心では危なっかしう思っていたのかもしれない。

その後、紆余曲折もありながら、初志貫徹とでもいうのか、弁護士になったのですが、それを天職とできるかは今後の頑張り次第というところでしょうか。

当時の友人たちも、それぞれキャリアを重ね、あるいは家庭を築き、充実した日々を送っているようです。卒業後は、彼女らと二回だけ中部高校を訪れましたが、それも十年近く前のことになります。

もう先生の顔ぶれも変わってしまったでしょうが、一度、また皆を誘って、懐かしい校舎を訪れてみたいと考えている今日この頃です。

## 酒井幹事長

### おめでと〜ございます！

平成二十六年十一月、本支部の酒井純幹事長（第七五期）が、「黄綬褒章」を受章されました。長年、公認会計士として活躍され、また日本公認会計士協会北海道会の会長などを歴任された功績が評価されました。

大変名譽な功績に対し、平成二十七年四月に開催された本支部常任幹事会において、出席者一同より花束を贈呈し、その喜びを分かち合いました。



酒井幹事長を囲んで

## 平成26年度収支計算書

白楊ヶ丘同窓会札幌支部

自 平成26年4月 1日  
至 平成27年3月31日

収入の部		
科目	金額	摘要
前年度繰越金	1,654,400	
年会費	317,000	@2,000円 / 150名 @5,000円 / 1名 現金払 @2,000円 / 6名
終身会費	210,000	@10,000円 / 1名 @15,000円 / 4名 @20,000 / 7名
総会懇親会費	460,000	@5,000円 / 65名 @3,000円 / 8名 現金払 @5,000円 / 21名 @3,000円 / 2名
広告掲載料		
雑収入	47,000	総会祝儀・寄付金等
預金利息	187	郵便貯金
収入計	1,034,187	
収入合計	2,688,587	

支出の部		
科目	金額	摘要
総会懇親会費	423,600	会場関係費
講演会費	30,000	
印刷費	201,183	白楊ヶ丘札幌、総会通知、年会費払込票等印刷費
会員名簿作成費		
通信費	168,033	総会通知、支部報、発送費等
旅費交通費	73,000	本部・他支部総会参加旅費、その他交通費
会議費	80,000	役員・幹事会費
事務費	13,919	文具・消耗品費
振替手数料	21,230	郵便振替手数料
雑費	52,244	本部・他支部祝儀・その他雑支出
支出計	1,063,209	
次期繰越金	1,625,378	内訳財産目録のとおり
支出合計	2,688,587	

財産目録		
種類	金額	摘要
現金	11,931	
振替口座	842,770	
郵便貯金	770,677	
合計	1,625,378	



# 白楊ヶ丘同窓会札幌支部 第35回定期総会・懇親会

## 講演会 「旅のあれこれ放談」



講師 岸 俊光 氏(第69期)

### ●講師のご紹介

1948年 函館市で生まれる。  
 1968年 ㈱日本交通公社入社、函館支店にて国内・海外団体旅行を担当。数多く・海外旅行の企画手配、添乗を経験、北海道から初の海外チャーター便利用した旅行企画を担当、実施した。  
 1986年 ㈱日本交通公社海外旅行札幌支店で北海道初のジャンボジェット機をチャーターしての海外旅行の企画を担当。  
 1990年 ㈱JTB商品企画販売部プロデューサー  
 1996年 ㈱JTBトラベランドへ出向、札幌麻生店、函館イトーヨーカドー店  
 2001年 ㈱JTBトラベランド函館上磯ダイエー店、函館和光店、函館イトーヨーカドー店の各店長を歴任。  
 2008年 今までにないサービスを提供する旅行会社を目指して独立、「キシトラベルサービス ㈱トラベル・ウィンドウ」を函館市で設立開業、現在に至る。  
 《海外渡航先:ヨーロッパ、アメリカ、アフリカ等をはじめ全世界約56ヶ国を訪問、国内は、ほぼ全地域の観光地を訪れている。=添乗員としても》

### 函館中部高等学校校歌

作詞 函館中部高等学校教諭

藤原直樹

作曲 函館中部高等学校教諭

酒井武雄

一、火柱のはためく峰も

年古りて緑の臥牛

宇賀の浦風の砂山

波よせてくずれ流るる

見よや物なべてうつろふ

窮みなし流転の相

二、北の国雪深けれど

その底には草は芽ぐめり

野山荒れ鳥潜めども

やがて来ん春の光に

万象の蘇る見よ

ここにあり不滅の生命

三、白楊のさやめく丘辺

秋深き梢仰げば

冴え渡る銀河の彼方

幽けくぞ星雲燃ゆる

胸に満つ久遠の思ひ

遙かなり真理の彼岸

四、限りなき流転の中に

生命あり不壊の学び舎

聞けや今窓の外遠く

新潮の入りくるひびき

よしさらば若人われら

踏まんなかな希望の門途

### 函館中学校校歌

(同窓会歌)

作詞 第二高等学校教授

土井晩翠

作曲 東京音楽学校教授

岡野貞一

一、玄冥の北の一道

関門の岸に臨みて

青春の薫にしるく

基おく育英の場

二、集い寄る千余の子弟

人生の花の綻び

身を鍛へ心を練りて

向上の一路を辿る

三、宇賀の浦万頃の水

駒が岳千仞の山

微を積みて高きに至り

滴より空をもひたす

四、形ある無言の教

仰げ我が紅顔の子等

業成らば双の方の上

興国の運も負へかし

五、母校の名子弟の誉

花と香と常に伴ふ

任重く道の遠きを

嗚呼健児勉めざらめや

## 編集後記

三十二歳を迎える一年は、同期の結婚式が次々と控えております。先日、函中音楽部同期と後輩の結婚式に出るため、桜満開の函館に行くことができました。これが主目的ではありませんでしたが、函中を訪問し、千原校長先生と教育に関するお話ができたこと、足を伸ばして、新幹線の「新函館・北斗駅」も見ることができ、充実した二泊三日となりました。また、昨年来準備を進めていました「argo book」ページも開設することができ、本日のこの総会の模様からアップする予定でありますので、是非とも「いいね」を押していただき、ウェブ上を通じて若い方々への情報発信をしてみたいと思います。よろしくお願いたします。

(二〇四期・中村大輔)



2015年4月函中を訪問しました